



認知症サポート
SOMPO
笑顔倶楽部

Supported by



未来へのそなえ

認知症共生社会実現に向けて

超高齢化社会の抱える問題のなかでも、差し迫って重要性が高い認知症や介護に関して正しい理解に向けたコンテンツをみなさまに定期的に発信していきます。

第8弾 介護サービス 利用時の相談相手 ケアマネジャー



ご家族が要支援、要介護の認定を受け、介護サービスを利用したいという時などに頼りになるのがケアマネジャーです。本記事ではケアマネジャーの役割や、具体的な仕事内容、依頼の方法やポイント、上手な付き合い方などについて紹介します。

ケアマネジャーとは

ケアマネジャーは介護保険制度に基づいた職業で、正式名称を介護支援専門員といいます。介護を受けた方に対して、訪問介護やデイサービスなど、適切な介護サービスが受けられるよう、必要な介護サービス計画書（ケアプラン）を作成します。

また、市区町村から介護認定調査を依頼されると調査をし、結果を報告します。さらに、利用者やサービス事業者・施設などとの橋渡しの役目も担います。

ケアマネジャーが担う役割

- 利用者や面接し、食事や入浴、排せつなどの状況を把握する
- 在宅での利用者の目標を立てる
- 利用する介護サービスの目的、種類、頻度などを記載したケアプランを作成
- サービス事業者へ、利用者に対するサービスの提供を依頼する
- 定期的に利用者の状況を把握し、サービスが本人に合っているか確認する
- 利用者の状態に合わせてプランの変更・修正をする
- サービスの実績を市区町村に報告する

ケアマネジャーの必要性

ケアマネジャーは介護サービスを利用するためのケアプランを作成する役割などを担っています。ケアプランとは、利用者一人ひとりが介護保険サービスを適性に利用するために必要なものです。介護サービスには訪問介護や通所サービスなどさまざまなものがあり、専門知識がないと何が適しているか分かりません。そこで、専門知識を持ったケアマネジャーが必要となります。

サービスの提供以降、医療関係やサービス事業者をはじめとした関係機関と連絡調整してくれるのもケアマネジャーです。特別養護老人ホームや介護老人保健施設、グループホームなどの施設にもケアマネジャーは配置され、入居者一人ひとりに対してプランを調整するなど、重要な役割を果たしています。





認知症サポート
SOMPO
笑顔倶楽部

Supported by



未来へのそなえ

認知症共生社会実現に向けて

ケアマネジャーへの 相談方法とポイント

ケアマネジャーに相談する場合は、まず地域包括支援センターへ相談するのが一般的です。一方、すでに要介護認定を受けている場合は、地域包括支援センター経由でケアマネジャーを紹介してもらうか、連絡先が書いてある資料をもらって、自身で連絡します。

ケアマネジャーを選ぶ際は、次の点に注意すると良いでしょう。

資格や経験を確認する

ケアマネジャーは、医療系や福祉系の現場で経験を積んだ方が多くいます。そういった方々は、介護福祉士や作業療法士、理学療法士など、ケアマネジャー以外の資格も持っています。所有資格や実務経験によって得意分野に違いがあります。

医療的なサービスを主に受けた場合には看護師などの資格を持つケアマネジャーが適しており、在宅介護について相談したい場合には、訪問介護の経験があるケアマネジャーを選ぶと心強いサポートをしてもらえるでしょう。

信頼できる人かを確認する

ケアマネジャーと利用者、家族との信頼関係は重要です。ケアプランを的確なものとするには、経済的なことや要介護者の性格、状態、環境などについて話すことも多く、ケアマネジャーへの信頼感が必要となります。まずは、話をしっかりと聞いてくれる方か確認してみましょう。

また、説明が分かりやすいかということもポイントです。家族の心情を理解し、かみ砕いて話してくれる方だと、長期に渡って安心してお付き合いできるでしょう。



介護の悩みを相談してみましよう

ケアマネジャーは介護保険法に基づいて、要支援者、要介護者が介護サービスを受け際のケアプランの作成や、市区町村や介護施設、医療関係などと連携を行う専門職です。

相談する際はお任せしてばかりではなく、ご本人や家族の状況、希望をしっかりと伝え、より良い介護につなげましょう。

無料
5分でできる
認知機能チェック

あたまの元気度チェック
約5分でセルフチェック



今回の記事は、 認知症サポート SOMPO 笑顔倶楽部 に掲載されている以下のURLより引用・転載しております。

[ケアマネジャーの役割を知ってうまく付き合う方法 | 選び方や利用する際の注意点](https://www.sompo-egaoclub.com/articles/topic/1291)

<https://www.sompo-egaoclub.com/articles/topic/1291>



認知症サポート
SOMPO
笑顔倶楽部

Supported by



未来へのそなえ

認知症共生社会実現に向けて

超高齢化社会の抱える問題のなかでも、差し迫って重要性が高い認知症や介護に関して正しい理解に向けたコンテンツをみなさまに定期的に発信していきます。

第9弾 仕事と介護の両立に 役立つ「介護休暇」



仕事と介護の両立を検討している方に対して、有給休暇とは別で取得できる「介護休暇」という制度があります。この制度を利用することで、仕事を続けながら介護に充てる時間を増やすことができます。

介護休暇とは

介護休暇とは、家族の誰かが要介護状態になった場合に取得できる休暇制度です。

「育児・介護休業法」で定められた制度のひとつであり、2週間以上の期間、常時介護が必要な「要介護状態」と認められた際に取得できます。

常時介護を必要な状態とは、次のいずれかに該当する場合です。

● 介護保険制度の要介護状態区分において要介護2以上であること

● 歩行や会話、食事や排せつ

など日常生活に必要なことに對して、「人や物の助けがあれば自分でもできる」か「自分ではできないため全面的な介助が必要」にあてはまり、その状態が継続する場合

介護休暇の目的

介護休暇の目的は「仕事と介護（家庭）との両立ができること」です。

介護休暇を活用することで、「ケアマネジャーとの打ち合わせ」や「介護保険の手続き」、「通院の付き添い」などができ、そのため、介護の負担を軽減し、無理なく働けるようになります。

介護休暇の取得条件

介護休暇を取得できるのは、基本的には日雇い従業員を除いたパート・アルバイトを含む「すべての労働者」です。ただし、労使協定を締結しており、次のような条件に当てはまる方は、対象外となる場合があります。

● 入社6ヶ月未満の労働者

※令和7年4月1日から本要件は廃止予定

● 1週間の所定労働日数が2日以下の労働者

取得条件は労使協定の内容をよく確認し、労務担当者に相談するといいでしょう。





認知症サポート
SOMPO
笑顔倶楽部

Supported by



未来へのそなえ

認知症共生社会実現に向けて

介護休暇の取得日数や期間について

介護休暇の取得可能な日数は、対象の家族1人の場合は「年間で5日間」まで。対象の家族2人の場合は「年間で10日間」までとなります。企業で取得期間の取り決めがない場合は、基本的に毎年4月1日から翌年の3月31日が取得期間となります。

介護休暇と介護休業の違い

介護休業は、対象の家族ひとりにつき最大3回、合計で93日間の休みを取得できる制度です。一度に93日分を使うか、必要に応じて日数を調整するかは個人の選択に委ねられます。介護休業は「介護と仕事を両立させるための準備期間」として活用するのが有効です。次に取得例を紹介します。

● 実家など離れて暮らす家族に介護が必要になった

● 離れて暮らす介護が必要な家族を迎えに行くために、準備を整える

● 老人ホームなどの施設の入居やデイサービスの利用などを検討している場合の準備

企業によって異なりますが、休業期間は労働を行わないため、企業は給与を支給する義務がありません。基本的に、休業期間は何もしなければ無給になると捉えておく必要があります。

経済的に厳しい場合は、ハローワークに申請することで、「介護休業給付金制度」などの支援を受けることができます。



介護休暇を取得するために

介護休暇を取得するためには、事前に会社の上司などに相談しておく和良好的でしょう。突発的な事情で取得する可能性があることなど、今後の可能性を伝え、理解を得ておくとう安心です。

取得方法や申請方法など、企業によって求められる対応が異なるため、相談する際に併せて確認しておくとう良いでしょう。

無料
5分でできる
認知機能チェック

あたまの元気度チェック
約5分でセルフチェック



今回の記事は、 認知症サポート 笑顔倶楽部 に掲載されている以下のURLより引用・転載しております。

介護休暇とは？種類や条件、手続き方法など | 取得するデメリットについて

<https://www.sompo-egaoclub.com/articles/topic/1293>